

第9次家畜改良増殖目標（案）のポイント

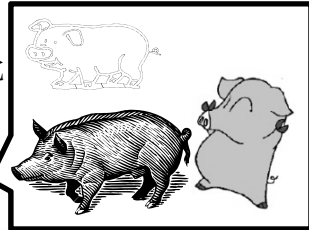
資料5

今般、10年先の平成32年度の家畜の能力・体型・頭数の目標である「第9次家畜改良増殖目標」を策定しています。「高く売れる」「生産量が多い」といった従来の価値観だけでなく、特色ある家畜による多様な畜産経営、消費者ニーズに応えた畜産物の供給、長期的にひっ迫基調の穀物需給への適応、を軸とした家畜づくりを進めます。

多様な経営を支援し、消費者の選択肢を増やします。

特色ある家畜の利用を支援します。
多様化する消費者の嗜好に対応します。

育種資源を
データベース化



チーズ適性の高い
ブラウンスイス種



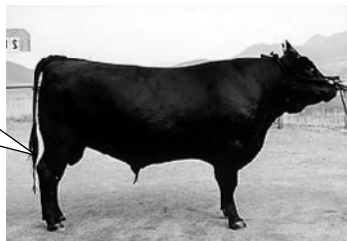
純国産鶏種
「岡崎おうはん」



遺伝的多様性に配慮した
和牛育種

消費者のニーズに応じて、手頃な畜産物を供給します。

霜降りが多く生産コストの高いこれまでの和牛改良だけでなく、平均的な品質で早く育つ和牛作出の可能性も追求します。



1頭(羽)から生産される畜産物を増やします。それによって農家の経営コストが下がれば、畜産物が安く供給されると期待できます。



離乳頭数
H20 9.9頭/産
↓
H32 10.8頭/産
(ラントレス種)

飼料資源をムダにしない 地球に優しい家畜をつくります。

少ない飼料で多くの畜産物を生産できる家畜を作ります。



体重1kg増加に必要な飼料量を
6.5%節約(デュロック種)

卵1個あたり必要飼料量を
4.6%節約



体調を崩しにくく生産性の高い乳牛をつくります。このような乳量の変化の小さい牛(青線)は、大きい牛(赤線)に比べ、同じ乳量でも体の負担が小さく、エネルギー源の輸入とうもろこしを節約できます。

